

愛媛県

愛媛果研ニュース

No.37 令和元年 10 月



愛媛県イメージアップキャラクター

「みきゃん」

昨年7月の西日本豪雨は県下全域に甚大な被害を与え、柑橘産地においてもこれまでに経験のない大規模な園地崩壊、農道の寸断、モノレールの損壊、スプリンクラー等灌漑施設の破損など深い爪痕を残しました。被災をされた方に心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興を願っております。

さて、果研ニュース No. 36 で紹介した有望系統「愛媛 48 号」(商標：紅プリンセス) を、今年4月に品種登録の出願を行ったところです。現在、栽培特性を明らかにするために調査研究を進めており、令和4年春を目途に苗の供給が開始される予定です。今しばらくお待ちいただくとともに、品種更新・新植の候補として計画的・積極的な導入を考えていただければと思います。

ところで、今年の全国の温州みかんの作柄は、和歌山県と静岡県が不作傾向を示す中、本県は今のところほぼ前年並みの生産量を見込んでいます。しかし、台風10号通過後から8月下旬まで日照不足が続いており、品質への影響が心配されます。消費者の期待に応えられる高品質な果実に仕上げるため、収穫の直前まで品質向上に努めていただくよう願っています。

今回は、①「川田温州」の半樹交互結実による安定生産、②生物多様性の保全とカンキツ栽培におけるメリット、③キウイフルーツ花粉ビジネスに適した雄品種の選抜について取り上げました。「川田温州」は浮皮になりにくく、旨い品種であるため今後伸ばして行きたい品種の一つです。また、持続可能な農業の実現に向けて柑橘園での生物多様性についても考慮する必要があります。キウイフルーツでは、安全な国産花粉を大規模に生産販売する花粉ビジネス化を目指した試験を実施しています。今後の経営の参考にしていただければ幸いです。

果樹研究センター みかん研究所長 井上久雄